

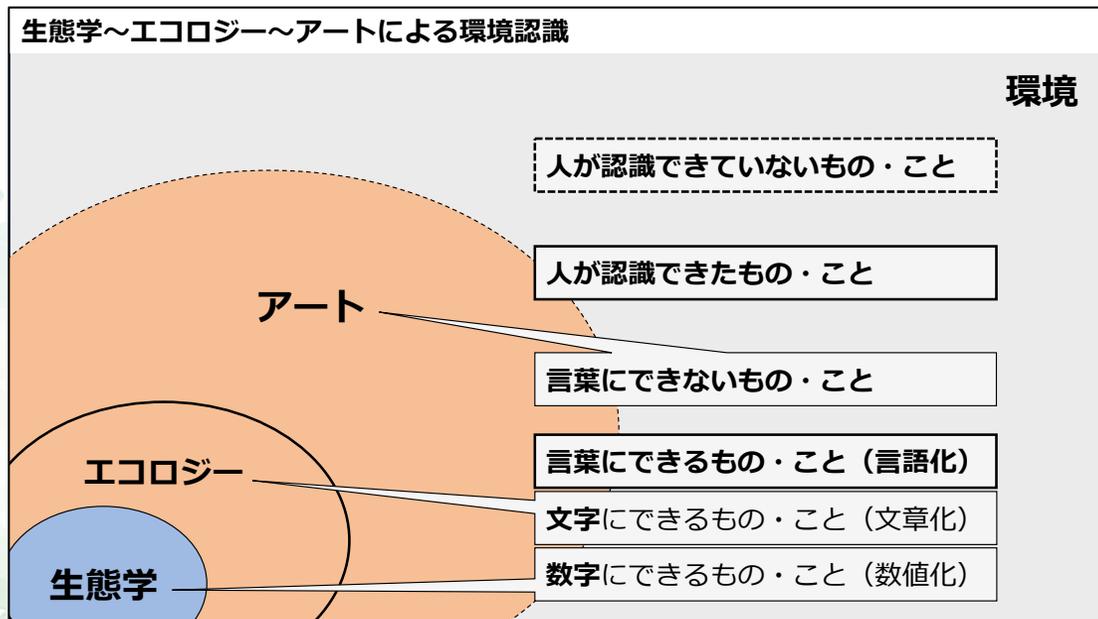
生態学、エコロジー、そしてアートへ

キーワード: 生態学、エコロジー、アート、環境認識、対話と協働

1. はじめに

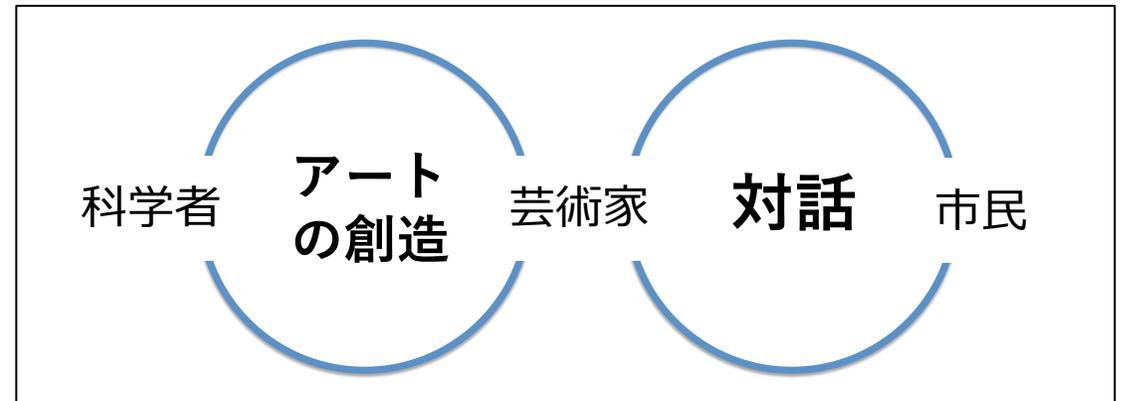
生態学は自然科学に関するものですが、エコロジーは思想や倫理など人文学に関するものです。たとえば、生態学とエコロジーとのつながりにより、生物多様性の価値（生態系サービス）と人間の心理や行為の関連性を明らかにすることができます。一方のアートは、混沌とした状況や不透明な事象から、真実らしきものや本質と見なし得るものを探究発見することで、自然を対象にする生態学の方法にもつながります。また、アートとは、あるテーマやコンセプトをもとに表現したものであり、アートとエコロジーのつながりにより、環境アートには何らかの意味（環境思想など）が込められています。

2. 環境認識



3. 「対話と協働」によるアートの創造

科学（生態学）だけでなく、環境思想（エコロジー）による環境認識をベースにした科学者と芸術家の対話と協働によるアートの創造が社会の中で求められています。「協働」とは、異なった考え方、アイデア、イメージ、発想法が出会い、切磋琢磨することにより、既成概念にとらわれない新たな考え方、手法を生み出しながら結果として地域課題や環境・社会的課題を発見・解決するところに意味があり、多様性こそが変革を生むという価値観に基づいています。



4. おわりに

このような対話と協働によるアートの創造は、人文・社会科学と自然科学を含むあらゆる「知」の融合による「総合知」あるいは、あらゆる分野の科学技術に関する知見を総合的に活用して社会の諸課題への的確な対応を図る「総合知」をも越えた「多くの人の知性を集めると、より優れた知性が登場する」という市民を含めた「Collective Intelligence（集団的知性）」による創造であり、科学文明下においてよりよい社会変革をもたらすものと考えられます。